

けんぽだより

2023
春号



千葉県 石神の菜の花畑を走る小湊鉄道／提供：アマナ

雪の聖母会健康保険組合

マイナンバーカードと 健康保険証の一体化により 医療の質の向上へ



雪の聖母会健康保険組合
理事長
井手 義雄

被保険者ならびにご家族の皆さまにおかれましては、平素より当健康保険組合の事業運営にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

全世代型社会保障の構築が正念場

本格的な「少子高齢化・人口減少時代」を迎える歴史的転換期において、「全世代型社会保障」の構築に向けた議論が進められています。令和4年12月には「全世代型社会保障構築会議報告書」がまとめられました。報告書では、目指すべき社会の将来方向として、「少子化・人口減少」の流れを変え、これからも続く超高齢社会に備えて社会の持続可能性を高める対応も強化するとともに、「地域の支え合い」を強めることを挙げています。

これに基づき、政府は全世代対応型の持続的な社会保障制度を構築するために、健康保険法等の改正案を今国会に提出しています。法案の具体的な内容としては、出産育児一時金に対する後期高齢者医療制度からの支援金の導入、後期高齢者医療制度における後期高齢者負担率の見直し、前期高齢者の医療給付費について被用者保険者間で報酬水準に応じて調整する仕組みの導入、都道府県がかりつけ医機能を確認・情報提供する基盤の整備などがあります。

改正案は医療保険・医療提供体制改革の第一歩にすぎません。現役世代の負担軽減の確実な実施、効果的なかかりつけ医制度に向けて、さらに改革を進めていく必要があります。負担の公平化、医療費適正化を推進するとともに、子供・子育て支援の充実や働き方を問わない社会保障制度の構築に向けた取り組みを着実に進めることが重要です。

健康保険証をマイナンバーカードと一体化

政府は、現在使われている健康保険証を令和6年の秋をめどに廃止することを目指し、マイナンバーカードと健康保険証の一体化に向けた整備を進めています。令和5年4月からは、医療機関の窓口での医療保険の資格確認に「オンライン資格確認」が義務付けられました。

マイナンバーカードを健康保険証として登録・利用するメリットは大きく分けて5つあります。

1つ目は、患者本人の同意を得た上で医療機関・薬局が患者の特定健診・薬剤・診療情報を閲覧することが可能になるため、医師・薬剤師から自身の情報に基づいた総合的な診断や、重複する投薬を回避した適切な処方を受けることができます。

2つ目は、高額な医療費が発生する場合に、患者の高額療養費の限度額情報を医療機関に提供す

ることで、「限度額適用認定証」を窓口で提示しなくても限度額を超える支払いが免除されるようになります。

3つ目は、就職・転職・引越をした場合でも健康保険証としてずっと使えることです。マイナンバーカードと個人の情報がひも付いているため、健康保険証の切り替えや更新の手続きを行う必要がなくなり、そのまま使い続けることができます。

4つ目は、確定申告時の医療費控除の手続きで、マイナポータルとe-Taxを連携することで、医療費情報を自動入力することが可能になることです。医療費の領収書を管理する必要がなくなり、オンラインで申告を完結させることができます。

5つ目は、「顔認証付きカードリーダー」によって医療機関・薬局での受付が自動化され、本人確認が徹底されるとともに、スムーズな診療につながります。

セキュリティ面で不安という声も聞かれますが、政府はマイナンバーカード方式の場合、顔認証付きカードリーダーで顔認証や暗証番号により認証するため、顔写真なし・手渡しで資格確認が行われる従来の健康保険証よりも悪用されにくくなるとしています。

このように社会保障制度の改革に向けた議論が進められている過渡期の中で、当健康保険組合としては議論の行方を注視し、必要な対応を順次行っており、まいります。被保険者ならびにご家族の皆さまにおかれましては、ご自身の健康づくり、医療費の節減に引き続きご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



令和5年度 収入支出予算概要

健康保険分



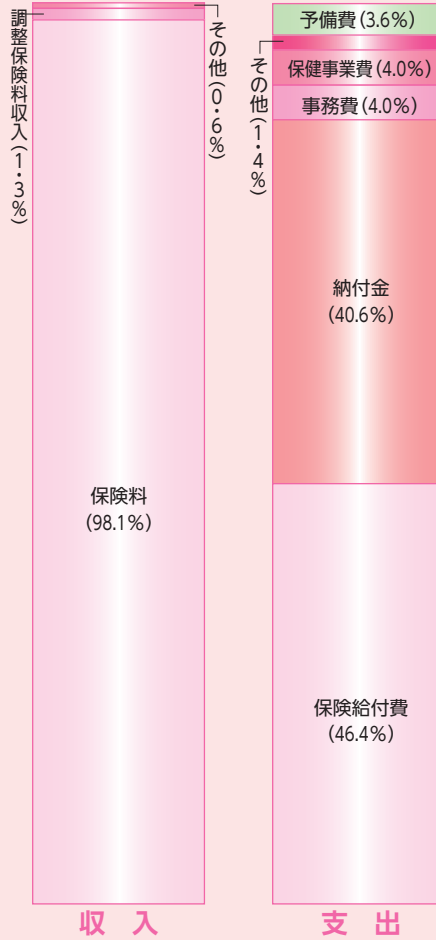
point

保険料

毎月の給与とボーナスから納めていただく健保組合の主要財源です。「基本保険料」は皆さまの医療費などに使われ、「特定保険料」は高齢者の医療費を支えるために使われます。

収 入 (千円)	
保 険 料	1,342,430
国庫負担金収入・他	319
調 整 保 険 料 収 入	17,733
国 庫 補 助 金 収 入	374
財政調整事業交付金	7,467
雑 収 入	410
合 計	1,368,733

収入と支出の割合



point

納付金

65～74歳の人が対象の前期高齢者医療制度への納付金と75歳以上の人が対象の後期高齢者医療に対する支援金などです。

point

保険給付費

医療費の給付や出産、死亡時の一時金の給付などをするための費用です。

支 出 (千円)	
事 務 費	54,717
保 険 給 付 費	635,101
法 定 給 付 費	624,000
付 加 給 付 費	11,101
納 付 金	555,757
前期高齢者納付金	244,608
後期高齢者支援金	311,143
そ の 他	6
保 健 事 業 費	54,442
還 付 金 ・ 営 繕 費	4
財政調整事業拠出金	17,733
連 合 会 費	724
積 立 金	542
雑 支 出	171
予 備 費	49,542
合 計	1,368,733

経常収入合計 13億4,330万7千円

— 経常支出合計

13億145万円

= 経常収支差引額

4,185万円

介護保険分

point

介護保険料

40～64歳の被保険者が負担している介護保険の保険料です。

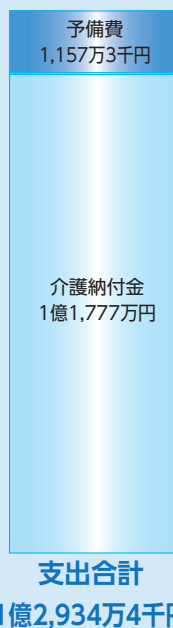


雑収入 1千円



予備費
1,157万3千円

介護保険料還付金
1千円



point

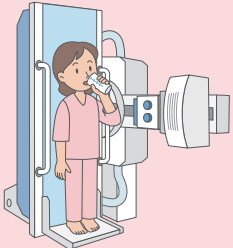
介護納付金

市区町村に介護保険の財源として配分するために健保組合が負担する納付金です。



当健保組合の
令和5年度の保健事業について
お知らせします。

令和5年度 保健事業概要

実施項目	対象者	対象年齢	概要
特定健康診査事業			
生活習慣病予防健診	一般被保険者	35-39歳	35歳～39歳の一般被保険者を対象に実施
生活習慣病予防健診(特定健康診査)	一般被保険者	40-74歳	40歳～74歳の一般被保険者を対象に実施(付加健診除く)
HbA1c	一般被保険者	全年齢	一般被保険者全員に実施(職員健診に追加)
付加健診	一般被保険者	40-70歳	40歳以上の一般被保険者を対象に、5歳ごとに実施
		対象年齢	対象生年月日
		40歳	S.58(1983.4.2)～S.59(1984.4.1)
		45歳	S.53(1978.4.2)～S.54(1979.4.1)
		50歳	S.48(1973.4.2)～S.49(1974.4.1)
		55歳	S.43(1968.4.2)～S.44(1969.4.1)
		60歳	S.38(1963.4.2)～S.39(1964.4.1)
		65歳	S.33(1958.4.2)～S.34(1959.4.1)
		70歳	S.28(1953.4.2)～S.29(1954.4.1)
特定健康診査	一般被扶養者・任継	40-74歳	4月1日に資格を有している40歳～74歳の一般被扶養者、任意継続被保険者・被扶養者に実施
日帰りドック	一般被扶養者・任継	40-74歳	4月1日に資格を有している40歳～74歳の一般被扶養者、任意継続被保険者・被扶養者に実施

特定保健指導事業			
特定保健指導：積極的支援	被保険者・被扶養者 (任継含む)	40-74歳	健康診断の結果「積極的支援レベル」と判定された方を対象に実施
特定保健指導：動機付け支援	被保険者・被扶養者 (任継含む)	40-74歳	健康診断の結果「動機付け支援レベル」と判定された方を対象に実施

疾病予防対策事業			
がん検診補完検査 1			
胸部CT	一般被保険者	40-70歳	付加健診対象者に実施
腫瘍マーカー	一般男性被保険者	40-74歳	男性：AFP・CA19-9・PSA
	一般女性被保険者	40-74歳	女性：AFP・CA19-9
	任継被保険者・被扶養者	40歳以上(男性)	AFP・CA19-9・PSA
	任継被保険者・被扶養者	40歳以上(女性)	AFP・CA19-9
がん検診補完検査 2			
ピロリ菌検査	一般被保険者	35歳以上	35歳以上の被保険者に実施
ピロリ菌除菌	一般被保険者	35歳以上	検査結果陽性者に実施
婦人科検診 1			
子宮頸がん検診	一般女性被保険者	全年齢	内診・視触診・HPV検査
	任継被保険者・被扶養者	40歳以上(女性)	内診・視触診・HPV検査
婦人科検診 2			
乳がん検診	一般女性被保険者	29歳以下	乳腺エコーのみ
	一般女性被保険者	30-39歳	マンモ1方向必須 乳腺エコーオプション
	一般女性被保険者	40-49歳	マンモ2方向必須 乳腺エコーオプション
	一般女性被保険者	50-74歳	マンモ1方向必須 乳腺エコーオプション
	任継被保険者・被扶養者	40-49歳	マンモ2方向必須 乳腺エコーオプション
	任継被保険者・被扶養者	50-74歳	マンモ1方向必須 乳腺エコーオプション
インフルエンザ等 予防接種	一般被保険者	全年齢	一般被保険者全員に実施
	一般被扶養者・任継	40歳以上	特定健診受診者にインセンティブ(インフルエンザ・肺炎球菌予防接種)

